



ニッセンケンの試験メニューを
世の中のいろいろな話題と自由きままにミックス!



COLUMN 試験担当者のひとり言

お役立ちな独白 6 おむつ防臭袋の代用にパン袋？ 暮らしの裏技、その実力は？

2025.6.20

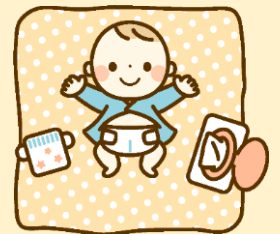
【育児とニオイのリアルな話】

こんにちは。私はこの4月、育児休暇を終えて職場復帰しました。丸2年間、年子の子どもの育児に奮闘する日々で、悩みは尽きませんでした。最近ようやく、「なんとかなる！」の精神で、育児と向き合えるようになってきましたが、それまではとにかく不安で、何かあるたびに解決策をネットで調べ、まさに検索魔になっていた気がします。



寝てくれない、離乳食を食べてくれない、泣き止まない、抱っこが重い、よだれが多い……
そしてとにかく、**おむつごみが多い！！**

現在も、我が家では1日に10個以上のおむつごみが出るので、ごみの日には袋がずっしりと重くなり、持ち上げた瞬間、手がちぎれそうになります。



しかも、そのまま捨てると結構なニオイがするため、おむつ用の防臭袋を使うようになったのですが……1袋に2～3個まとめて入れても、1日に3～4枚は消費するため、「もう少し気軽に使えるものはないかな」と思うようになりました。

【パン袋？…意外な代用品】

そんなとき、SNSや育児ブログで見かけたのが、「パン袋をおむつ防臭袋の代わりに使っている」という投稿。

パン袋??
そうです、スーパーなどで売られている、食パンの包装袋です。

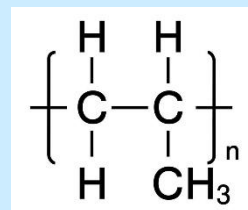
最初は半信半疑でしたが、試してみたところ、確かに臭わないような気がします。それ以来、我が家では約1年半、パン袋を“防臭袋代わり”として愛用しています。



【パン袋の素材、実は高性能？】

実は「パン袋」として知られている袋の多くは、ポリプロピレン(PP)というプラスチック素材でできています。PP は、水に強く、軽くて丈夫で、加工しやすいという特長から、バケツや洗剤ボトル、ハサミの取手など、家庭内のさまざまな製品に使われています。

加えて、ニオイの元となる揮発性有機化合物(VOC)を通しにくい性質もっており、防臭用途にも適した素材です。医療・衛生分野の包装資材や、食品パッケージなどにも広く使用されています。

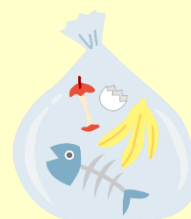


ポリプロピレンの構造式

実際、防臭袋にも同じ PP 素材が使われていることが多く、パン袋との「素材としての近さ」から、防臭袋の代用品として機能する可能性もあるんですね。

【防臭袋が活躍するシーン、実はたくさん！】

防臭袋は、おむつごみだけでなく、日常の様々なシーンで使われています。
たとえば・・・



- ・ペット：猫や犬のトイレごみの保管に
- ・生ごみ：夏場のニオイ対策(魚や皮など)に
- ・旅行・外出：使用済みおむつや汚れた衣類の持ち帰りに
- ・災害備蓄：簡易トイレや衛生用品の保管に

このように、普段の生活から災害時まで、防臭袋の用途は意外と広いことが分かります。
もしパン袋で代用できるなら、コスト的にも使い勝手的にも、心強い味方になりそうです。



【パン袋に防臭力、実際のところは？】

バイオケミカルグループでは、抗菌性・消臭性・防臭性など、生活に密着した素材の性能評価を行っています。「なんとなく臭わない気がする」という感覚はあるけれど、本当に防臭力があるのかを確かめるには、客観的な試験が必要ですよね。

常備しておく便利な防臭袋、そしてパン袋の防臭効果は果たして本当にあるのでしょうか？
次回、実際の試験を通じて検証し、数値で「見える化」してみたいと思います。お楽しみに！

ひとりごと執筆担当：ライフ アンド ヘルス事業本部 バイオケミカルグループ同 [ご質問はこちらからどうぞ！](#)